



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：P5+1 との協議が開始（11月7～8日）

10月7～8日、スイス・ジュネーブにある国連の欧州本部で、イランとP5+1とのハイレベル協議が2日間の日程で始まった。7日、イランのザリーフ外務大臣とEUのアシュトン外務・安全保障政策上級代表が開幕式に出席した。協議には外務次官が出席し、双方はイラン提案の詳細に関して協議する予定である。ザリーフ外務大臣は、イランとP5+1との協議が正式に開始される前に、記者団に「関係国すべてが努力すれば、ジュネーブの協議で合意に至ることができる」と語っていた。

7日の第1回協議後、アシュトン代表報道官は、「イランとP5+1との協議は進展しているが、詳細については明らかにしないことで合意した」と述べたが、ジュネーブで行われたアシュトン代表とザリーフ大臣の朝食会（7日午前）は良好なものだったとし、「7日午後には様々な枠内で協議が行われる予定だ」と語った。イランのアラーグチー外務次官も、協議終了後、協議の雰囲気は肯定的なものだったとし、「双方は同時に信頼醸成の歩みを進めることになっている」と述べた。

### 米国との協議

二国間協議としては、7日、ジュネーブで、シャーマン米務次官とアラーグチー外務次官が会談した。米務省高官は「実質的で真剣な話し合いだった」と述べ、イランの核計画縮小と、その見返りに米国が取る制裁緩和措置に関して、合意に向けた進展があったことを示唆した。

米メディアは米政府高官の話として、中東歴訪中のケリー米務長官が8日に急遽ジュネーブを訪問し、P5+1とイランの核問題を巡る協議に出席すると伝えた。ザリーフ外相とも会談し、核問題に関する基本合意を目指して閣僚レベルで協議を行う。

米国は、核開発の進展停止に限定的な制裁緩和で応じることを柱とする「第1段階」での合意を目指しており、オバマ米大統領は米NBCテレビのインタビュー（7日）で、イラン核問題の解決に向けて「第1段階の合意をする可能性がある」として、イランが核開発の進展を停止すれば制裁を限定的に緩和する可能性があるとの認識を示した。オバマ大統領は「第1段階」の意味を「イランが核プログラムの進展をすべて停止すること」と説明している。

### 評価

イランとP5+1の双方ともに、7日の話し合いで真の進展があったと述べており、膠着状態

を打破する何らかの動きがあったと見られる。一方で、当事国の秘密保持の徹底ぶりも際立っており、米イラン両政権にとって、外交解決の障害となりうる国内の強硬派の干渉を阻止する狙いがあるようだ。

イランのザリーフ外相は米 CNN テレビとのインタビューで、8 日午前に合意案の作成作業が開始されるだろうと語り、「8 日の協議が終了するまでに合意に達する可能性がある」と述べた。西側による経済制裁の一部緩和の見返りに、イランが核兵器に近いレベルに濃縮された核燃料の製造停止など核開発活動を縮小すると見られ、アシュトン代表報道官は、「話し合いは進展している。ただ、幾つかの問題について対処するためさらに時間が必要で、アシュトン代表は8 日午前にはザリーフ外相と会談する」と語った。米当局者によると、西側の対イラン経済制裁の一部停止の見返りに、イランは核開発活動をおそらく6 ヶ月間停止することになる見通しで、この合意は双方が包括的な合意を追求する時間を与えるものだという。

状況は急激に進展しており、注視が必要である。

(山崎研究員)